

見て、嗅いで 楽しい「春めき」



南足柄で見ごろ

南足柄市で、地元の園芸家が見いだした「春めき」という早咲きの桜が見ごろを迎えている。優雅な香りが特徴で、土手沿いの桜並木には甘い匂いが漂う。香りを再現したシヤンプーも人気だ。目だけでなく、鼻でも楽しむと多くの花見客が訪れている＝写真。

春めきを育てるのは同市の古屋富雄さん（71）。日本大を卒業し、農業改良普及員の資格

を得て30歳の時に市役所に就職し、農業畑を歩いた。

約30年前、知人の庭にあったヒガンザクラの中に通常より花の付まが良「枝変わり」を見つけた。この枝を譲り受けて接ぎ木などで増やし、2000年に品種登録して命名した。

春めきが放つ匂いが「視覚障害者に喜ばれている」と評判になったこともあり、古屋さんは「春めき財団」を立ち上げ、目の不自由

な人の施設などに苗木を配る活動が続ける。

「春めきは誰もが春を楽しめる」と話す。

企業も注目する。日用品大手のクラシエ（東京）は「いち髪」シリーズで、春めきの香りが漂うシヤンプーを発売。千葉県袖ヶ浦市の東京ドイツ村は、将来的に園内の山の斜面を春めきが覆う計画を立てる。施設管理部長の高宮拓児さん（49）は「目の不自由な人も楽しめる場所にした」と語る。